



Emergency Watch

No.68 Aug. 2016

神戸こども初期急病センター

2016年7月受診者数

2526人



【疾患頻度】

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 急性上気道炎・咽頭炎 | : 782人 |
| 2. 感染性胃腸炎 | : 288人 |
| 3. 感冒 | : 195人 |
| 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | : 136人 |
| 5. じんま疹 | : 93人 |

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）の流行の兆しがみられます。神戸こども初期急病センターも7月は46人の受診がありました。おたふくかぜは、およそ4～5年周期で流行が見られますが、2016年は2010～2011年に次ぐ流行がみられています。今後、夏季にかけて患者数が増えることが予想されますので、今月はおたふくかぜについてまとめました。

おたふくかぜは、耳下腺といって耳の下が急に腫れてくることを特徴とします。合併症としては髄膜炎が多く、また難聴の原因としても注意すべき疾患です。成人の罹患では精巣炎、卵巣炎などの合併があり、不妊の原因としても注意が必要です。

病原体	ムンプスウイルス
潜伏期間	主に16-18日
感染経路 (発生時期)	飛沫感染、接触感染。 幼稚園、保育所、小学校での流行が多い。春季から夏季に多い。
感染期間	耳下腺腫脹の1-2日前から腫脹5日ころまでであるが、唾液中には、腫脹7日前から腫脹後9日後までウイルスが検出される。
症状	全身の感染症だが耳下腺の腫脹が主症状で、顎下腺も腫れる。腫れは2-3日でピークに達し、3-7日間、長くても10日間で消える。痛みを伴い、酸っぱいものを飲食すると強くなる。
好発年齢	幼児から学童
診断法	臨床症状より診断されるが、確定のためには血液での抗体検査。
治療法	有効な治療薬はなく、対症療法が行われる。
予防法	多くの先進国で2回の予防接種が行われている。日本では任意接種であるが、日本小児科学会は2回の予防接種を推奨している。ワクチンによる髄膜炎の発症は自然感染時に比べ低い。
感染拡大防止法	飛沫感染、接触感染として一般の予防法を励行するが、不顕性感染があり、発症者の隔離では流行を阻止することはできない。
登校(園)基準	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで出席停止とする。